



「育てる」ようになろう

五月の連休、特に後半は雨が続き、計画が変更になったご家庭もあったかと思えます。二人暮らしの私など、特段の予定もなかったのですが、中途半端に終わった庭の草むしりが心残りでした。

学校では今年から月の集會を取り入れ、今月は2日に実施。久しぶりに全校児童が体育館に集まる中、みんなに「あいさつ」の話をしました。

た。あいさつには「初級」「中級」「上級」があつて、「初級」は自分から進んでするあいさつ。「中級」は…(いさびや子さんにお聞きください。) などなど。

連休明け、どんな顔をして登校してくるのかと案じていましたが、遠くから「おはようございます!」の声が届いてきて安心しました。気持ちのよい季節。しっかりと生活リズムを整える期間にしてほしいと思います。

新年度を迎えて間もないあの日の昼休み。子どもたちの様子を見ようと校舎内を歩いてみると、突然階段の踊り場から「あつ、校長先生!」と呼び止める声。逆光でシルエットになっていた顔が階段を下りてくると、初めて2階の教室になった新3年生の男の子であることが分かりました。

「いや、校長先生。最近、朝、会ってなかったから…」
「あつ、…そうだね。今は先生たちも立ってるでしょ。だから、校長先生はそれが終わってからまた始めるね。」

彼は私が朝、交通立番をしている交差点を毎日通って登校している子です。新学期早々は職員や地域の方にお任せしていたので、しばらく会っていませんでした。しばらく会っていませんでした。でも、その子が私に声をかけてくれたことは、とても意外なことでした。

「子供を育てる」とは、「子どもの中に何かを形づくること」と考えれば、生活習慣であったり、知識であったり、自信や自己肯定感でも当てはまるような気がします。しかし、それらをしっかりと子どもの中に根付かせるには、なかなか苦勞するものです。

私が朝、彼と顔を合わせて「おはよう。」と声をかけながら(目も合わさず)通り過ぎる時間は数十秒。去年一年間に私が立番をしたのは100日以上はあつたでしょう。わずかな時間ながら、毎日の繰り返しによって彼の中には「校長先生がいる交差点」が習慣化され、私との関係が形づくられていったのです。

「わかった。」とか「できるよになつた。」とか無理やり言わせなくても、良い刺激をわずかな瞬間でも毎日繰り返し与えていけば、子供は育つのかも…そんなことを感じた出来事でした。

下校の安全にも気を付けて 今後は学年によって下校時刻が異なり、少ない人数で下校することが多くなります。交通安全はもちろん、声掛け事案の発生などにも気を付けなければいけません。日は長くなりましたが、寄り道や遊びをしないで、安全に下校することを言い聞かせましょう。

小林市はほかの地区に先駆けて
「コミュニティースクール」を取り入れています。

小林小学校 コミュニティースクール体制



小林小学校区では、3月にまちづくり協議会が発足して、
コミュニティースクール体制がさらに強化されました。
今後、コロナ対策も見直され、学校と保護者と地域が一体となった学校づくりが
一層活発になると考えます。
こういった活動を見守り、アドバイスをいただく機関として「学校運営協議会」があります。
本年度、以下の方々に委員としてお願いしております。

【令和5年度 小林小学校学校運営協議会委員】

西 誠	様	(委員長)
広実 教秀	様	(副委員長)
柳田きえ子	様	(地域住民)
田中まゆみ	様	(地域住民)
水溜 賢二	様	(地域住民)
松永 望美	様	(保護者)

一年間 どうぞよろしくお願いいたします。

「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」